

東日本大震災 第10報  
国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
東松島市立大曲小学校でランドセル 50 個を手渡しました  
**学校がはじまるのがとっても楽しみ!!**

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子どもたちのための民間の国際援助団体(NGO)公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(理事長:上野昌也/理事・事務局長:渋谷弘延、以下 SCJ)は、本日、宮城県東松島市立大曲小学校にて、ランドセル 50 個と文具キット 300 個を手渡すとともに、学校からは新入学生にランドセルを、在校生には文具キットを手渡す贈呈式を行いました。



亀掛川校長よりランドセルを受け取る新一年生

ランドセルを受け取ったのは、21日に大曲小学校の新一年生になる8名の子どもたちと、ランドセルを津波で失った在校生28名で、文具キットは51名にお渡しできました。

ランドセルを手にした子どもたちは「学校に行くのがすごく楽しみ!」と満面の笑みでした。「津波でランドセルも学用品も失いました。こうして新しいランドセルを手にした子どもたちを見ることができてよかった」、「がんばってきてよかったね!」と涙ぐむ父兄もあり、大震災によって被災した子どもたちや父兄にとって、入学式がどれほど重要な日であるかがうかがえます。

大曲小学校では、この春の新入学生52名、全校生徒数は約373名になると見込んでいますが、震災の影響で、現在も児童の転入出があります。

「入学式の前に、子どもたちにランドセルをお届けすることができて本当によかった。学校は被災しましたが、多くの皆さまの励ましの心で何とか学校が再開できます。やらなくてはいけないことがいっぱいありますが、今後も子どもたちの心のケアに力を入れていきたいと思っています。そして、まずは子どもたちに学力をつけて欲しいと願っています。学校は地域に浮かぶ船、地域の復興を目指して、私たちも頑張ります。」と亀掛川孝雄校長は語りました。

子どもたちは、身のまわりの世界が突然奪われてしまったことで、心に深い傷を負っている可能性があります。これを和らげる第一歩として、友達と楽しく過ごせる時間や、学びに夢中になれる学校など、子どもたちにとっての日常が取り戻されることが重要です。また、今後子どもたち自身も地域復興の重要な担い手となっていきます。SCJでは、スリランカなどでの緊急教育支援活動で、失われた学用品の配布や、子どもらしく過ごし成長できるため社会心理的ケア、子ども主導による活動などの実績を生かして、支援を展開していきます